

pal\*system

2009年度

# 環境活動に関する報告書

## 1. 環境配慮活動に対する組織の考え方

生活協同組合パルシステム東京（以下パルシステム東京）は、理念の実現に向け、環境配慮活動を行なうことが人類共通の課題であると考えています。生協が行なうべき環境配慮活動は何か？について組合員が期待することや、事業活動に伴う環境影響から以下の基本姿勢をまとめています。この姿勢に沿って目的・目標を設定し、日々環境配慮活動を推進しています。パルシステム東京に加入する組合員が増えることによる環境配慮活動の広がりを期待しています。

### パルシステム東京 環境方針

#### 理念

パルシステム東京は「『食べもの』『地球環境』『人』を大切にした『社会』をつくります」を基本理念とします。

#### 環境に対しての基本姿勢

パルシステム東京は、理念に沿って組合員への商品・サービスの供給や、消費者の視点から様々な社会的課題の改善に向けた運動を展開しています。地球温暖化や資源の枯渇、生物多様性の減少など環境問題が深刻化する中、パルシステム東京の社会的責任として国内環境保全型農業の推進や環境配慮商品開発と利用普及、事業・サービスに伴う環境負荷低減、組合員とくらし方の見直し活動をすすめることであると認識し、以下の環境活動に取り組みます。

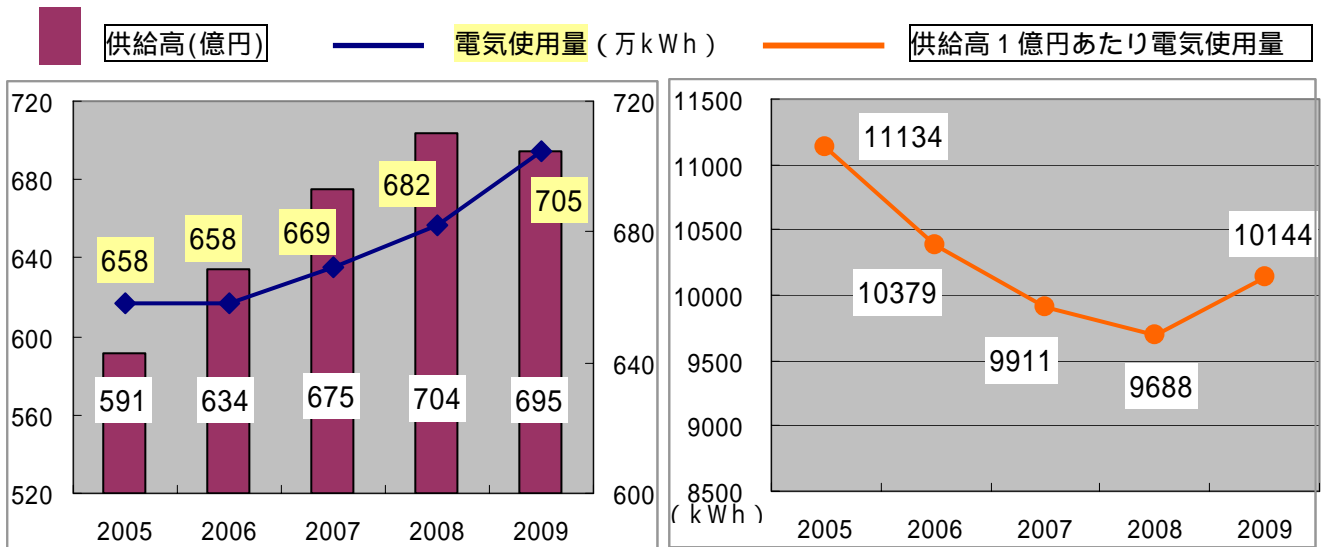
なおこれらの活動を進めるにあたり環境影響を評価したうえで技術的・経済的に可能な範囲で目的・目標を設定し、定期的に見直すことによって環境汚染の防止や環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。また環境側面に関わる法律、規制、条例及びその他の受入を決めた要求事項を順守します。

- 1) CO<sub>2</sub>排出総量の削減に取り組みます。
- 2) くらし方の見直し運動を組合員参加で広げます。
- 3) 再生可能エネルギーの拡大に取り組みます。
- 4) 日本の食料自給率向上に取り組みます。
- 5) 環境に配慮した商品づくりと普及に取り組みます。
- 6) 森林を守る運動を進めます。
- 7) 生物多様性の保全に取り組みます。

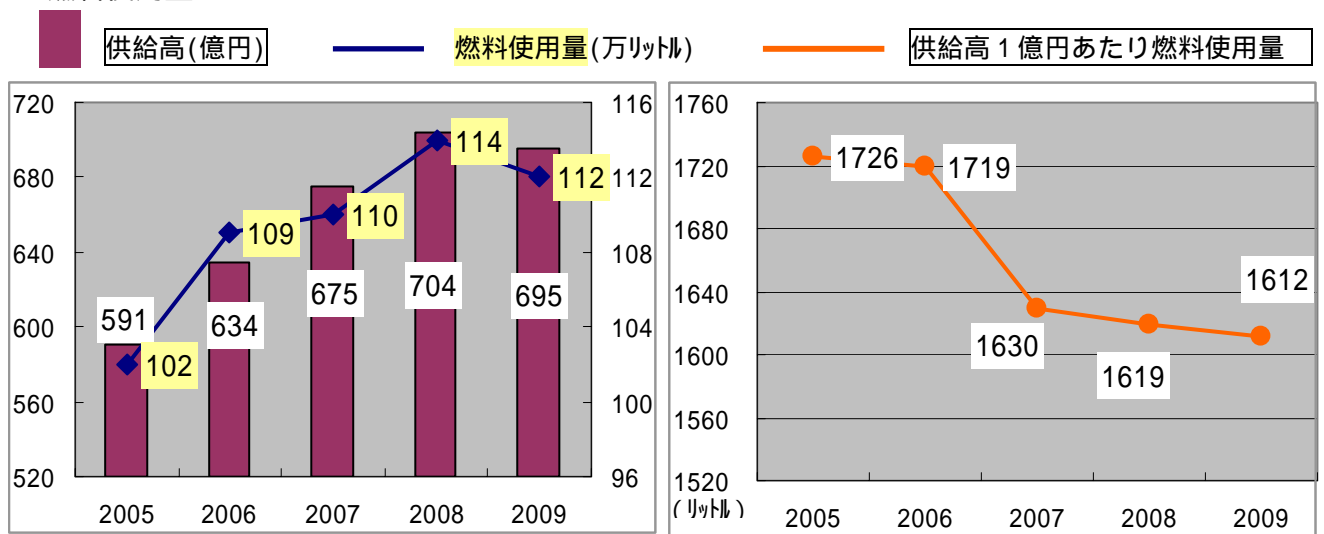
## 2. パルシステム東京の事業活動と環境影響

### 《INPUT》

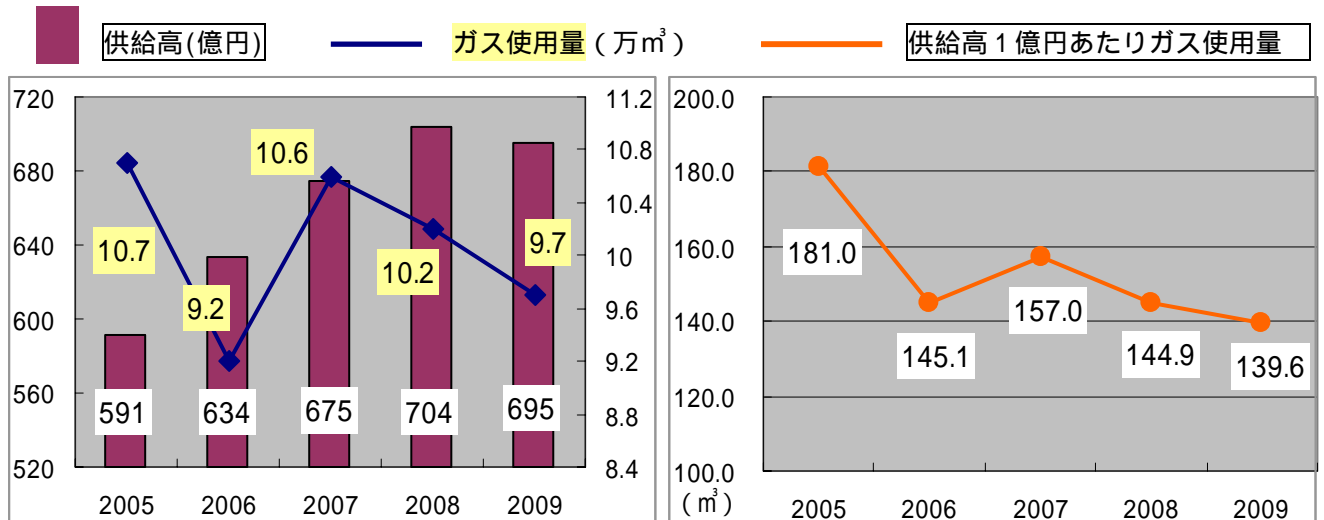
#### 電気使用量



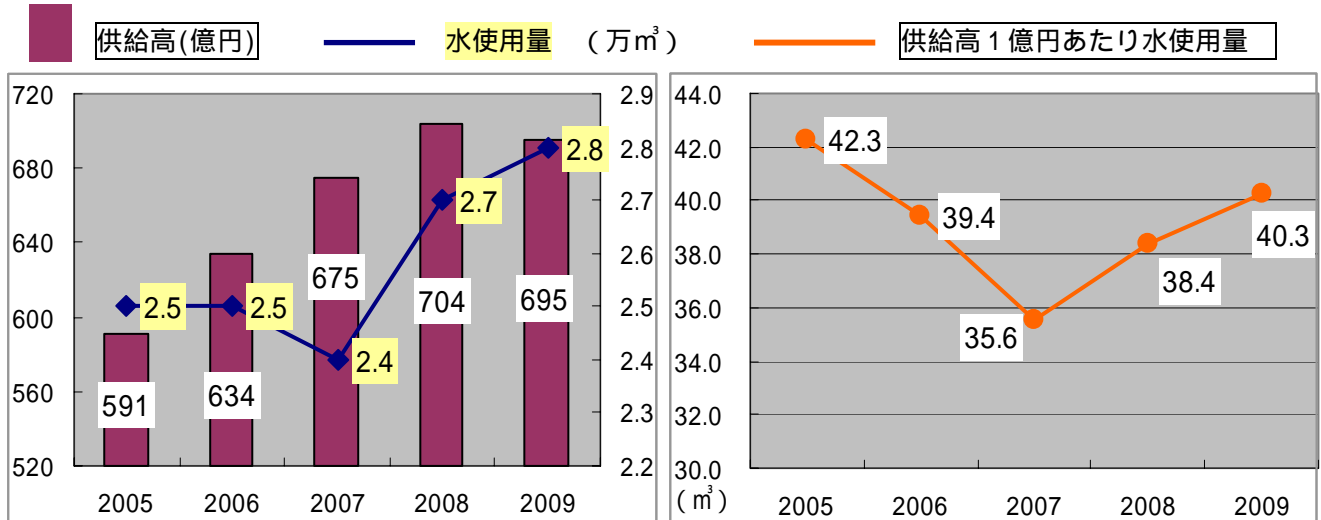
#### 燃料使用量



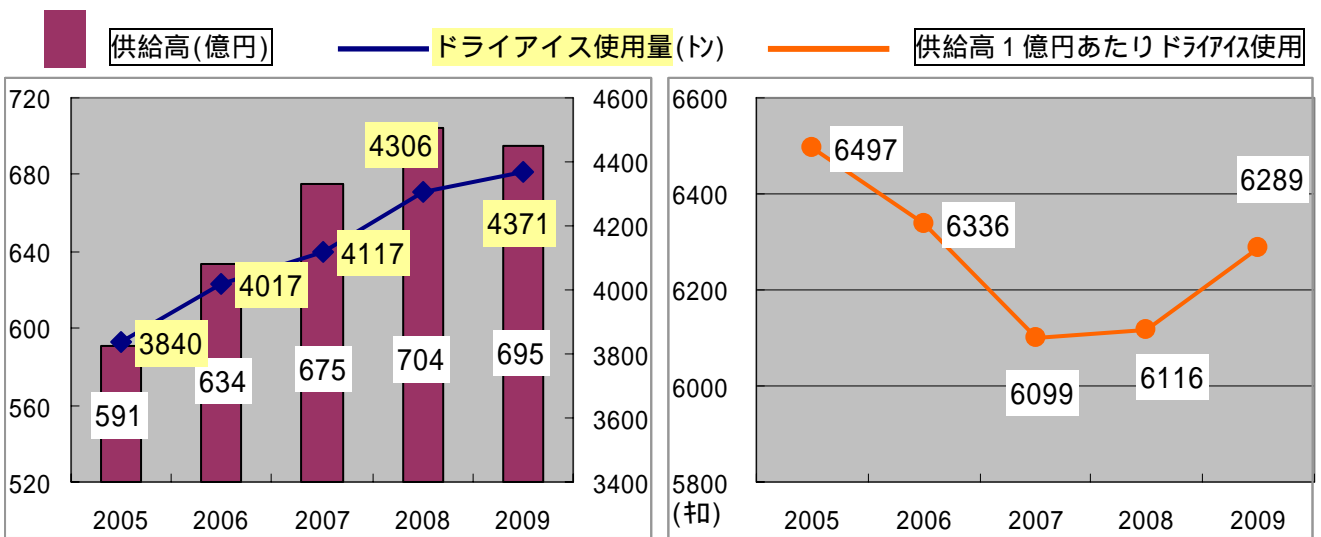
#### ガス使用量



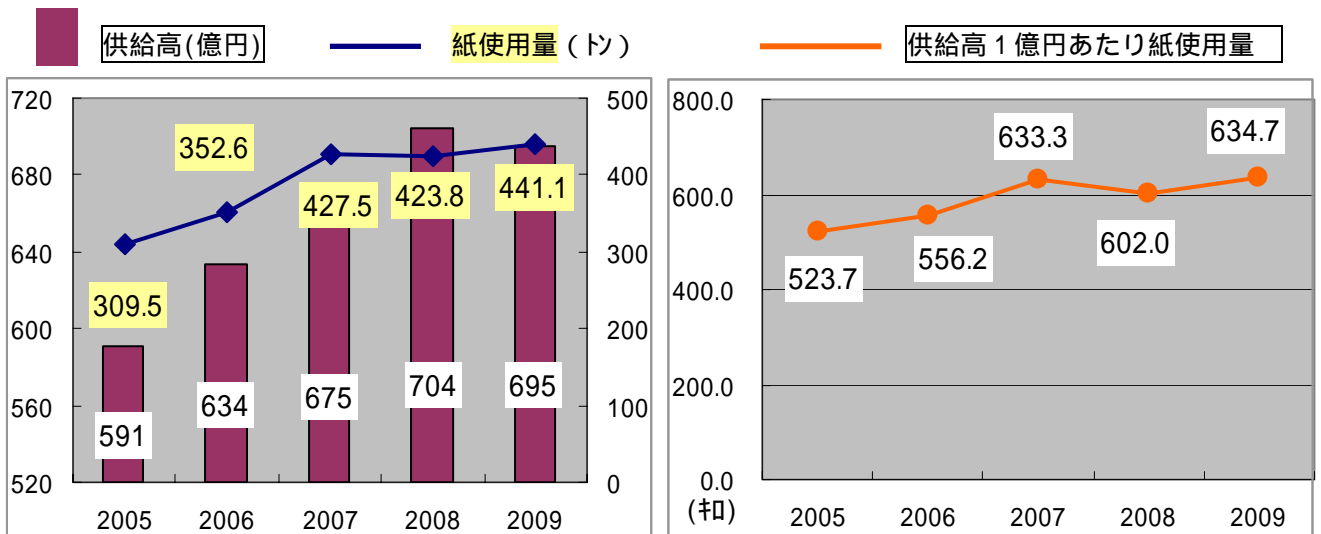
### 水使用量



### ドライアイス使用量



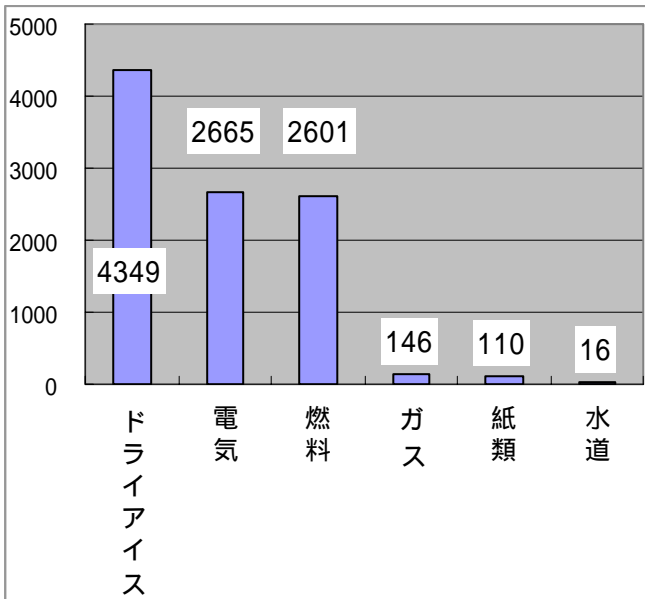
### 紙類使用量



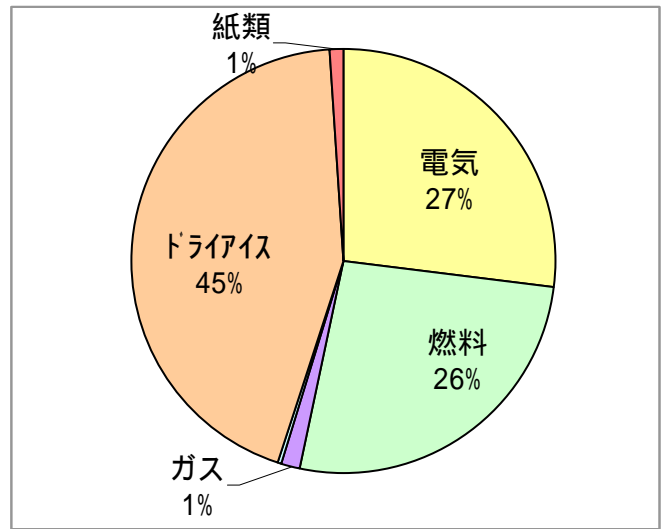
# 《OUTPUT》

## 二酸化炭素排出量

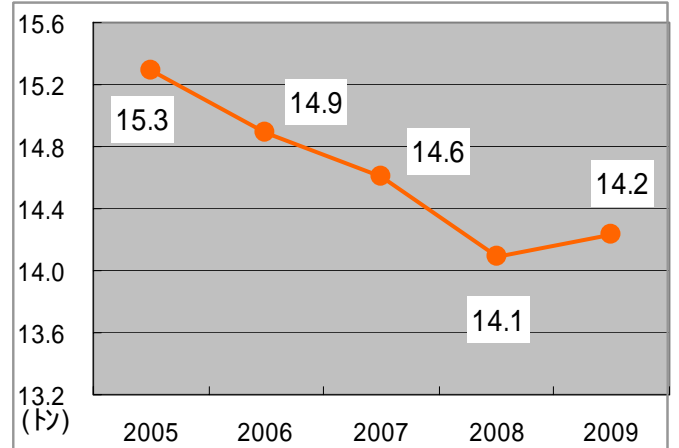
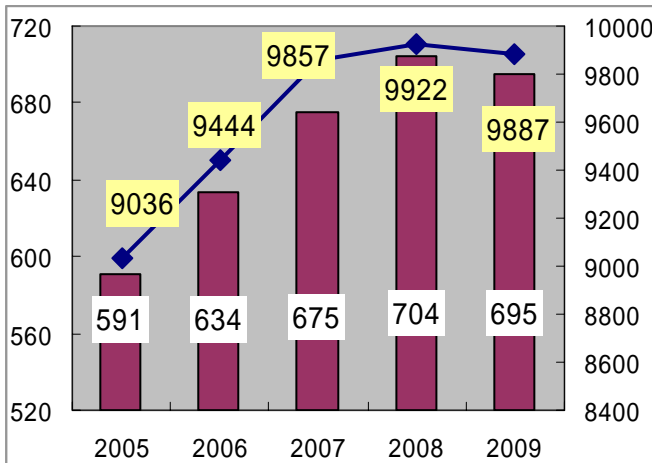
項目ごとの排出量(単位トン)



二酸化炭素排出量割合(2009年度)

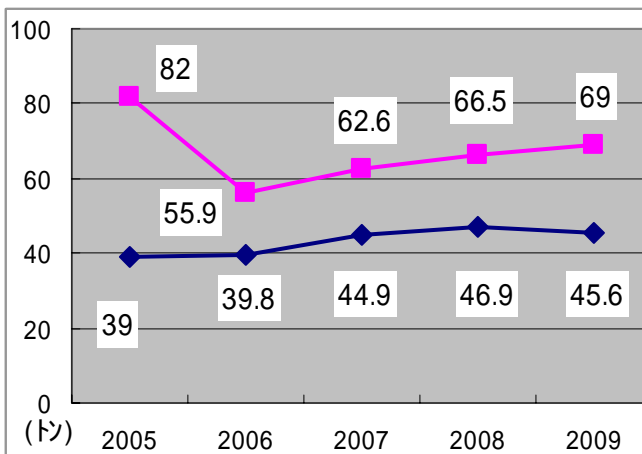


供給高(億円)      二酸化炭素排出量(トン)      供給高1億円あたり二酸化炭素排出量

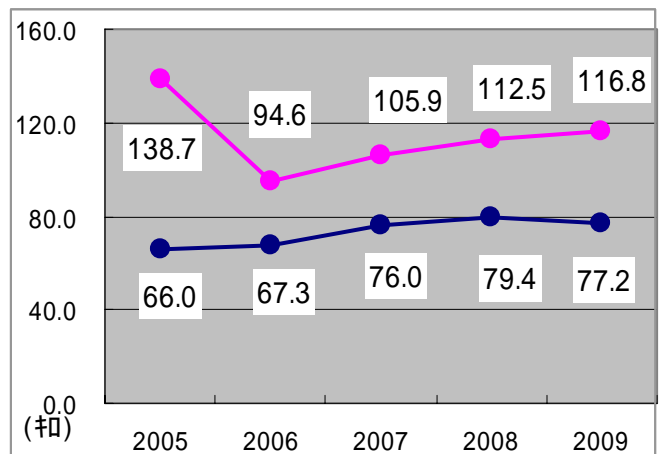


## 廃棄物

可燃廃棄物(トン)      不燃廃棄物(トン)

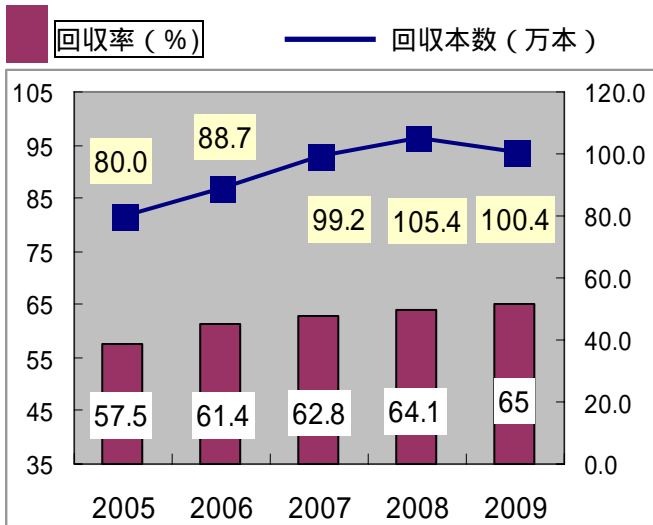


供給高1億円あたり二酸化炭素排出量(和)

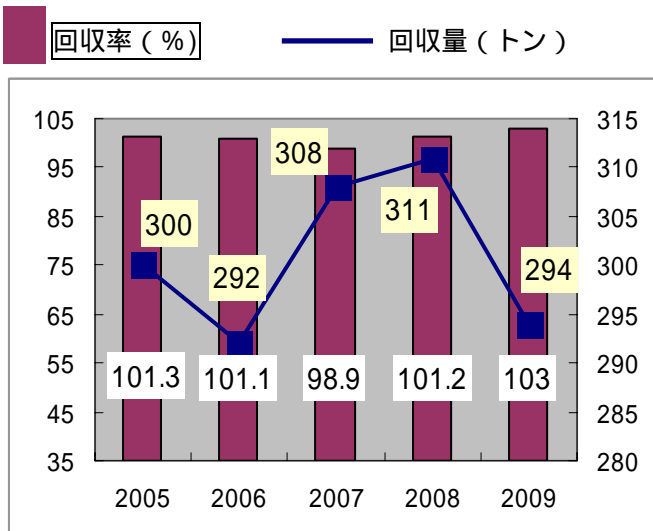


# 《リユース・リサイクル品の回収データ》

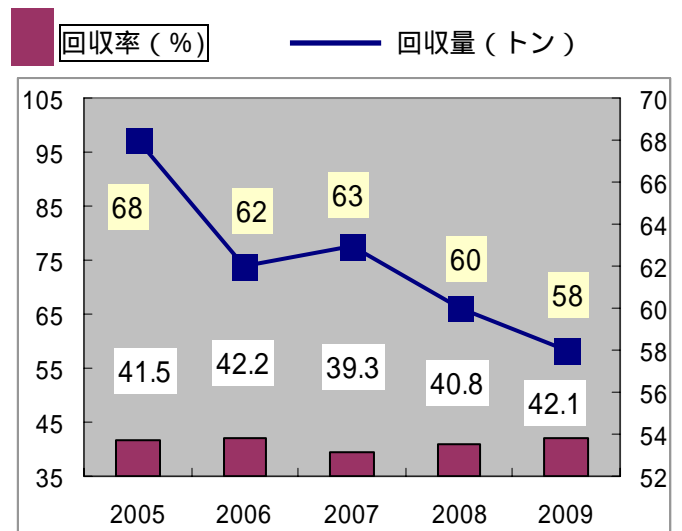
リユースびん



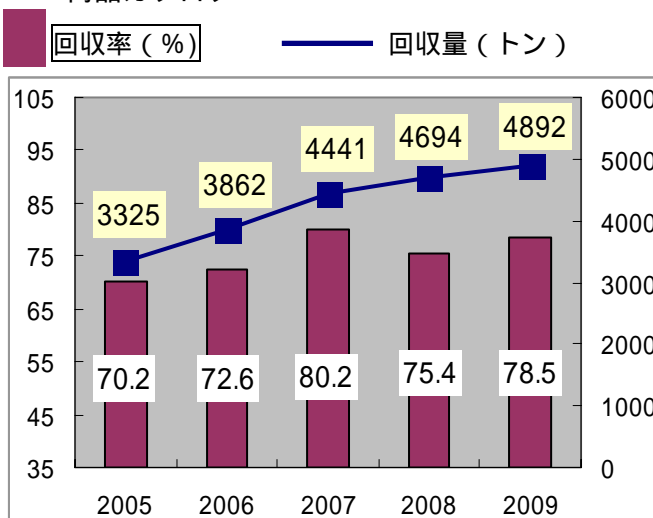
紙パック



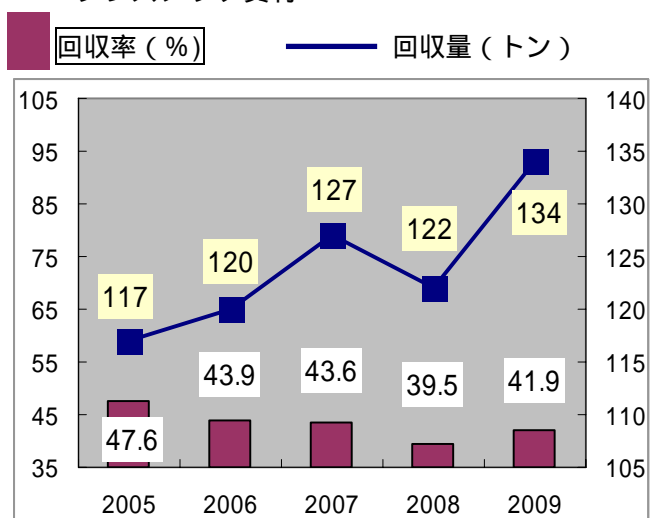
A Bパック



商品カタログ



プラスチック資材



### 3.目的・目標の進捗状況

#### 3.1 CO<sub>2</sub>排出総量の削減に取り組みます

著しい環境側面	環境影響項目	環境目標・環境目的		手段
・電気の使用 ・燃料の使用 (車両・施設) ・ガスの使用	・地球温暖化 ・資源の枯渇	2009年度	温暖化防止自主行動計画における中期目標数値の確定	・定期会議の実施 ・ESCO 事業者との事業所調査及び削減効果見積もり ・進捗管理及び見直し ・日本生活協同組合連合会への定期報告
		2010年度	運用管理	
温暖化自主行動計画における中期目標数値の確定 ・別紙 温暖化自主行動計画参照 評価				
・電気の使用 ・燃料の使用 (車両・施設) ・ガスの使用	・地球温暖化 ・資源の枯渇	2009年度	供給高1億円あたり CO <sub>2</sub> 排出量の削減(7.95t) 08年度実績1%削減	・各事業所における省エネ活動の推進 ・定期データ収集及び定期会議における運用改善検討 ・温暖化防止自主行動計画に基づく省エネ機器の設置 ・定期会議における効果検証及び運用改善検討
		2010年度	CO <sub>2</sub> 総排出量の抑制(目標値は中計目標数値を反映)	
供給高1億円あたりCO <sub>2</sub> 排出量の削減(7.95t - CO <sub>2</sub> / 億円) ・1月累計で8.21t - CO <sub>2</sub> 達成率98.4% 評価				
・電気の使用	・地球温暖化 ・資源の枯渇	2009年度	電気総使用量の抑制(6,463,876kWh以内) 事業進捗103%に対し、08年度実績100.3%以内 練馬・板橋センターを除く	・各事業所における省エネ活動の推進 ・定期データ収集及び定期会議における運用改善検討 ・温暖化防止自主行動計画に基づく省エネ機器の設置 ・定期会議における効果検証及び運用改善検討
		2010年度	電気総使用量の抑制(目標値は中計目標数値を反映)	
電気使用量の抑制(事業進捗103%に対し、08年度実績100.3%以内に抑制 練馬・板橋センターを除く) ・1月累計で5,882,843kwh 達成率102% 評価				
・燃料の使用	・地球温暖化 ・資源の枯渇 ・大気汚染	2009年度	燃料総使用量の削減(1,120,785ℓ以内) ガソリン換算 08年度実績1%削減	・各事業所における省エネ運転の推進 ・定期データ収集及び定期会議における運用改善検討 ・各事業所における省エネ運転の推進 ・低燃費車両導入検討 ・定期データ収集及び定期会議における運用改善
		2010年度	燃料総使用量の削減(1,101,331ℓ以内) ガソリン換算 08年度実績3%削減	
燃料使用量の削減(ガソリン換算1,120,785ℓ) ・1月累計937,269ℓ 達成率101% 評価				

・ガスの使用	・地球温暖化 ・資源の枯渇 ・大気汚染	2009年度	ガス総使用量の削減(90,589 m <sup>3</sup> ) 練馬・板橋はデータ把握 08年度実績 0.4%削減	・各事業所における省エネ活動の推進 ・定期データ収集及び定期会議における運用改善検討
		2010年度	ガス総使用量の削減(89,782 m <sup>3</sup> ) 練馬・板橋分は、09年度実績を別途試算	・温暖化防止自主行動計画に基づく省エネ機器の設置 ・定期会議における効果検証及び運用改善検討
ガス総使用量の削減(90,589m <sup>3</sup> ) 08年度実績 0.4%削減 ・1月累計 70,920m <sup>3</sup> 達成率 101% 評価				

### SRレコーダー（運転診断）

パルシステム東京では、エコドライブ運転を日常的に運転できているかを診断する機器を2009年7月より羽村センターの配送車2台に導入し、毎日の運行状況を確認しています。この機器は、ブレーキ、停止、ハンドル、右左折、スムーズの5項目から採点し合計100点満点で評価する仕組みとなっています。この運転結果をもとに、安全管理や燃費向上によりCO<sub>2</sub>削減を目指しています。今後この機器導入による効果があれば、他のセンターでも運用を始めたいと考えています。



## 3.2 暮らし方の見直し運動を組合員参加で広げます

著しい環境側面	環境影響項目	環境目標・環境目的		手段
・組合員運動	・環境問題全般	2009年度	エコ・アクション・カレンダー推進(参加者 9,931名)	・エコ・アクション・カレンダーの制作 ・参加者募集 ・エコ・アクション Club の運営
		2010年度	エコ・アクション・カレンダーの推進(10,000名)	・エコ・アクション・カレンダーの改訂 ・参加者追加募集 ・インセンティブの見直し
エコ・アクション・カレンダー推進(参加者 9,931名) ・1月累計で6,018名参加 達成率 61% 評価 ×				
・組合員運動	・環境問題全般	2009年度	環境キャンペーン参加人数の向上(16,000名)	・定例会議の実施 ・企画立案及び実施 ・企画内容の見直し
		2010年度	環境キャンペーン参加人数の向上(18,000名)	・定例会議の実施 ・企画立案及び実施 ・企画内容の見直し
環境キャンペーン参加人数の向上(16,000名) ・キャンペーン期間8月末 21,291名参加 達成率 133% 評価				

### エコ・アクション・カレンダー

パルシステムでは2005年から取り組んだエコ・カレンダーを全面改訂し、2009年度は「エコ・アクション・カレンダー」を展開しました。組合員はお勤めのエコ活動をして、電気使用量を削減しました。



### 省エネアドバイザー

パルシステム東京では組合員とともに、身近にできる環境取組みを呼びかけています。2008年度から始めた「省エネアドバイザー制度」もそのひとつです。家庭によって住宅事情や家電製品も違うので、家庭のエネルギー使用状況を無料で診断して、すぐにできる省エネのコツをアドバイスしています。

#### 省エネ診断



家庭からの二酸化炭素排出量は、毎年 増え続けています。省エネ診断では、主にエアコン・照明・冷蔵庫・テレビの使い方を見直して、必要に応じて家電買換えもアドバイスしています。2009 年度は訪問診断 17 件、簡易診断 60 件を実施しました。

#### 省エネアドバイザー

パルシステム東京で養成した省エネアドバイザー 55 人が、組合員の家庭の省エネ診断をしています。

2009 年 12 月、東京都とパルシステム東京が協定書を締結しました。現在、省エネアドバイザー 22 名が東京都の診断員登録を受け、2010 年 3 月 1 日より、東京都・生協（組合員）が共同の診断を始めました。



省エネアドバイザー養成講座

### 3.3 再生可能エネルギーの拡大に取り組みます

著しい環境側面	環境影響項目	環境目標・環境目的		手段
・再生可能エネルギーの利用	・地球温暖化 ・資源の枯渇	2009 年度	エネルギー政策の検討	・定例打合せの実施 ・会員生協向け説明会の実施
		2010 年度	エネルギー政策の確立	・エネルギー政策の発効 ・エネルギー政策に基づく活動検討及び実施
エネルギー施策の検討 ・別紙 温暖化自主行動計画参照 評価				

### 3.4 日本の食料自給率向上に取り組みます

著しい環境側面	環境影響項目	環境目標・環境目的		手段
・商品供給 ・組合員運動	・国内自給率 ・温暖化防止 ・生物多様性保全	2009 年度	100 万人の食づくり運動学習会の開催(年間 47 回)	・学習会の開催、実施等
		2010 年度	100 万人の食づくり運動学習会の開催	・学習会の開催、実施等
100 万人の食づくり運動学週会の開催(年間 47 回) ・2 月累計 49 回開催 達成率 109% 評価				
・商品供給 ・組合員運動	・国内自給率 ・温暖化防止 ・生物多様性保全	2009 年度	はじめて BOX の初回受注数 26,232 点) 08 年度実績 1%減	・おすすめ活動 ・プロモーションツール開発
		2010 年度	はじめて BOX の初回受注数 向上(26,472 点) 08 年度実績維持	・おすすめ活動 ・プロモーションツール展開
はじめて BOX の初回受注数(26,232 点) 08 年度 1%減 ・2 月累計 25,771 点 達成率 105% 評価				

#### エコプロダクツ 2009



パルシステム連合会は 12 月 10 日(木)～12 日(土)に開催されたエコプロダクツ 2009 に出展しました。

今年度は「100 万人の食づくり」運動をメインテーマに「選ぶことから始めるエコ・アクション」をサブテーマとして、パルシステムが進める日本型食事を伝える「お米(ごはん)＋汁二菜コーナー」と新しい暮らしを提案する「暮らし見直しコーナー」を伝えました。





「お米(ごはん)＋汁二菜コーナー」では、お米を食べることで食料自給率が向上すること、パルシステムの田んぼで生物多様性が保たれること、だしが育む味覚、お米を飼料につかった飼料米の試み、旬の野菜を食べることの大切さなどを伝えました。

「くらし見直しコーナー」では、規格外野菜の利用や食品残さの削減を目指した「もったいないプロジェクト」、ペットボトルやびんのリコース、石けんの取り組みなどを紹介しました。

来場者からは「食をはじめ日ごろの生活から環境が保全できるということを知りました」などの感想が寄せられました。パルシステムを利用することが環境問題解決につながる新しい取り組みをアピールすることで社会的関心を高め、存在意義を広報できました。



### 3.5 環境に配慮した商品づくりと普及に取り組みます

著しい環境側面	環境影響項目	環境目標・環境目的		手段
・商品開発	・環境問題全般	2009年度	環境商品基準制定	・定期打合せの実施及び評価作業 ・WEB ページ作成及び公開 ・評価メンテナンス
		2010年度	運用管理	
環境商品基準制定中 評価 ×				
・リデュースの推進	・資源の枯渇 ・最終処分場の減少	2009年度	買い物袋持参率の向上 (87.8%) 08年度実績 1%向上	・店頭に置ける意識啓発の推進
		2010年度	買い物袋持参率の向上 (88.8%) 08年度実績 2%向上	
買い物袋持参率の向上 (87.8%) ・1月累計で 86% 達成率 99.7% 評価				
廃棄物の排出	・最終処分場の減少	2009年度	事業活動に伴う廃棄物の削減 (108.8t以内) 練馬・板橋はデータ把握 08年度実績 1%削減	・分別によるリサイクルの推進 ・新規リサイクルルートの開発
		2010年度	事業活動に伴う廃棄物の削減 (106.7t以内) 練馬・板橋は、09年度実績を別途試算 08年度実績 2%削減	
事業活動に伴う廃棄物量の削減 (108.8 t 以内) 練馬・板橋はデータ把握 ・1月累計で 100.6 t 排出 達成率 99.7% 評価				
リユースリサイクルの推進	・最終処分場の減少 ・資源の枯渇	2009年度	リユースびん回収率の向上 (65.0%) リサイクル回収率の向上 (74.0%)	・意識啓発チラシの配付 ・新規加入時におけるフォローアップ
		2010年度	リユースびん回収率の向上 (66.0%) リサイクル回収率の向上 (75.0%)	
リユースびん回収率の向上 (65%) ・2月累計 64.9% 達成率 99.9% 評価 リサイクル回収率の向上 (74%) ・2月累計 76.6% 回収 達成率 103% 評価				

### 「YUMMYUM ベビーソープ

パルシステムでは環境や肌への影響を考え石けんにこだわってきましたが、2009年6月に赤ちゃんにやさしい「低刺激」にこだわったYUMMYUM ベビーソープを開発しました。洗浄成分を100%純石けんとし、香料や着色料、酸化防止剤、防腐剤を無配合としています。皮膚への刺激性を考えナトリウム石けんを配合し、オレイン酸を成分比11%配合しています。このほかの成分もすべて脂肪酸とし、刺激性の低さを主眼においた配合比としました。



### 「びんを返してポイントをもらおう！」キャンペーン



パルシステムでは8月3日～28日の間に「びんを返してポイントをもらおう！」キャンペーンをおこないました。2009年度は特に回収率の低いびん360ml以下のびんに啓発シールを貼り、認知度向上を目指しました。回収に協力した組合員には1本返却（自己申告）につき1ポイント付与し、この間の回収率向上幅は9.9%アップしました。

## 3.6 森林を守る運動を進めます

著しい環境側面	環境影響項目	環境目標・環境目的		手段
・環境企画	・資源の枯渇	2009年度	森林保全プログラムの研究・立案	・森林保全プログラムの調査・研究 ・間伐作業プログラムの実施(年2回)
		2010年度	森林保全プログラムのテスト展開	・森林保全プログラムに基づくテスト展開 ・間伐作業プログラムの実施(年2回)
森林プログラムの研究・立案 ・森林伐採企画及び実施 評価				

### グリーンシップア・アクションへの参加

パルシステム東京では2006年から東京都、NPO団体と三者協定を結び、東京都保全林を守る活動である「東京都グリーンシップ・アクション」に参加しています。間伐体験を通じて森林の実態と手を入れる重要性について意識啓発をおこなっています。



## 3.7 生物多様性の保全に取り組みます

著しい環境側面	環境影響項目	環境目標・環境目的		手段
・組合員運動	・生物多様性保全	2009年度	生物多様性保全活動の実施(生き物モニタリング調査、外来種駆除活動)	・企画実施調整 ・関連団体との調整 ・次年度プログラムの検証
		2010年度	生物多様性保全活動への参加拡大(1,000名)	・プログラムに基づく企画実施及びメンテナンス ・関連団体との調整 ・新規プログラムの開発
生物多様性保全活動の実施(生き物モニタリング調査、外来種駆除活動) ・生き物モニタリングの報告会を終了し、調査のデータベースは東京大学から公開 <a href="http://butterfly.tkl.iis.u-tokyo.ac.jp/">http://butterfly.tkl.iis.u-tokyo.ac.jp/</a> また、外来種駆除については、企画の立案及び実施 評価				

## 生物多様性保全取り組み

「2009年度パルシステム東京生物多様性保全の取り組み」として3つのテーマで活動を展開しました。

### 生き物モニタリング調査

東京大学との協働プロジェクトとして「市民参加による生き物モニタリング調査」をおこないました。組合員に呼びかけ5月22日の「国際生物多様性の日」からスタートし、10月までの半年間、「ツマグロヒョウモン」(温暖化影響の指標となるチョウ)を中心としたチョウ類全般の調査をおこない、その報告件数は約5,600件以上になりました。このデータは東京大学保全生態学研究室が、同定・確認作業を行いデータベース化して一般に公開されました。3月13日にはまとめ報告会を開きました。



イキモニこんせん君

### 外来植物の駆除



6月7日に「川原で遊ぼう会」と連携し平井川のカヤ原を守るため、外来種のおオブタクサ等の抜き取りをしました。在来種であるカヤ原はおオヨシキリや東京都の希少種に指定されているカヤネズミの生息地です。10月4日に開催した光が丘のすすき原の保全も同様に、バッタなどのすみかを守ります。外来種による、地域生態系の崩壊に目をむけ活動を続けることで効果や達成感を実感し、次の環境保護活動へつなげていきます。

### 都市の緑の保全

都市の緑を知る取り組みとして2月26日に明治神宮で鎮守の森ツアーを行ない、都市にも守るべき森があることを学びました。来年度は里山の手入れや間伐材の利用等森の保全に向け積極的な取り組みを展開します。

